第５学年○組　算数科学習指導案

令和４年○○月○○日（○）第○校時

在籍児童数　　　　　　　　　○○名

授業者　　　　　教諭　○ ○　○ ○

１　単元名　　比べ方を考えよう（１）

２　単元について

　（１）教材観

　　　本単元で扱う単位量当たりの大きさについては、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

|  |
| --- |
| 第５学年　Ｃ変化と関係  （２）　異種の二つの量の割合として捉えられる数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。  ア　次のような知識及び技能を身に付けること。  　　　　（ア）　速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めること。  イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。  （ア）　異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。 |

　　　ここでは、これまでに学習した量に加えて、異種の二つの量の割合として捉えられる数量があることを学習し、その比べ方や表し方を理解する。本単元で学習する速さなどの単位量当たりの大きさについては、前単元で学習した平均の考えを使って、異種の二つの量の割合として捉えられる数量を比べることの意味を理解させることが重要である。

　　　異種の二つの量の割合として捉えられる数量を考えていく際には、平均の考えを基にして、二つの数量の間に比例関係があることを前提として解決していく。つまり、二つの数量のどちらか一方を揃えて、もう一方の量で比べる方法である。その際、公倍数の考えで揃えていくこともできるが、三者以上を比べる場合での効率性やいつでも比べられるという一般性から、単位量当たりの大きさで比べるよさについて理解できるようにしていく。そして、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目して、どのようにすれば比べることができるか、どのように数値化すればよいかを考えていく。

　　　速さの表し方には次の二つの方法がある。

　　　①速さを、単位時間当たりに移動する長さとして捉える。

速いほど大きな数値が対応する、一般的な表し方。時速50㎞は１時間に50㎞の長さを移動する速さということになる。

　　　②速さを、一定の長さを移動するのにかかる時間として捉える。

速いほど小さい数値が対応し、マラソンなどの競技で「１㎞３分」「100ⅿ18秒」というようにラップタイムを示す際などに用いられる。

いずれの表し方についても、単位量当たりの考えを理解させるために、数直線を活用して解決させていく。単に速さの公式を覚えるのではなく、比例関係を使った問題解決の仕方を説明させるなど、これまで学習してきた内容を活用しながら単位量当たりの考えをより深く理解できるようにさせたい。

本単元では、長さや重さ、面積や体積といったこれまでに学習した数量のほかに、異種の二つの量の割合として捉えられる数量があることを学習する。「ならす」という平均の考え方を前提として単位量当たりの大きさの考え方を理解し、それらを用いる力を育てる。さらに、単位量当たりの大きさの考え方が用いられている事例として「人口密度」や「速さ」などを取り上げ、様々なデータについて、単位量当たりの大きさを用いて比較する活動を通して、身の回りの事象を数理的に捉えて、論理的に考察しようとする態度を育てることをねらいとしている。

　　　第11単元では、「いくつかの数量があるとき、それらを同じ大きさにならす」という平均の意味とその求め方を学習している。その平均の考えは、どこでも割合が同じとみることであり、そこには比例関係が成立する。例えば、毎日走った距離をならして、１日に２㎞ずつ走るという場面では、日数が２倍、３倍、…になると、走る距離も２倍、３倍、…になるということである。「単位量当たりの大きさ」の学習の前提としてこの平均の考え方が必要である。

　　　量の大きさを比べたり測定したりすることについては、これまでにも経験している。例えば、長さの比較や測定では、第１学年で「端を揃えて比べること」「何かのいくつ分として表すこと」、第２学年で「１㎝を単位としていくつ分と表して比べること」を学習している。単位量当たりの大きさを用いた比較では、面積を揃えて人数を比べるなど、一方を揃えて他方の大きさを比べるが、揃えて比べるという意味では同様の考え方である。

　　　また、単位量当たりの大きさは、第２学年の乗法、第３学年の除法の学習においても用いている。しかし、それは「１台に５人ずつ乗る」「１人に５個ずつ配る」など、単位量当たりで表すことが前提であり、わざわざ「単位量当たり」を意識する必要がなかった。分離量と連続量の橋渡しになるものとしては、第５学年第５単元「小数のわり算」があり、「2.5ⅿで300円のリボン１ⅿの値段を求める」などの問題に取り組んできている。これらの既習の学習で用いた考え方と統合しながら、単位量当たりの大きさの理解をより深いものにしていくことが重要である。

６年

５年

３年

**11　平均**

・平均の意味とその求め方

・平均から全体量を求める方法

**12　データの調べ方**

・代表値（平均値、最頻値、ドットプロット、度数分布表、ヒストグラム

・統計的な問題解決の方法

**☆データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について考える**

**３　わり算**

・除法の意味

（等分除、包含除）

**12　単位量当たりの大きさ**

・単位量当たりの大きさの意味

・人口密度の意味とその求め方

・速さの意味と表し方

**☆異種の二つの量の関係に着目し、大きさの比べ方や表し方を考える**

**14　割合**

・割合の意味とその求め方

**☆異種の二つの量の関係に着目し、割合を用いた比べ方や百分率の表し方を考える。**

　（２）児童観

　　　本単元を実施するに当たり、児童へ算数に対する意識調査を行った。

【令和４年７月下旬実施】（実施人数２９名）

　　　上記の結果から、本学級の児童は、「１．算数の学習は好きですか」の質問に対し、「好き（好き・どちらかというと好き）」と回答した児童が90％おり、算数の時間にほとんどの児童が前向きに学習に取り組めていると捉えられる。学習課題に対して、自分の考えをノートに記述し、積極的に発表する児童もいる。しかし、「２．算数の時間で、面白い（難しい）と感じるときはどんなときですか。」の質問に対し、「自分で解き方を考えているとき」に「難しい」と回答した児童が59％と半数を上回っている。このことから、自力解決に苦手意識をもち、問題解決ができないことでつまずいている児童が多いことがわかった。そのことを踏まえ、学習する単元に関わる既習事項の確認や、題意の確認、解決への見通しを全体で共有し、自力解決へと臨ませることが重要だということが考えられる。また、「友達と解き方を話し合っているとき」に「面白い」と回答した児童が55％いることから、自らの考えをもったうえで話し合い活動を充実させれば、児童はさらに意欲的に授業に臨めることが期待される。

　　しかし、第５学年の算数科の学習内容が難しくなり、学力差が少しずつ出てきているのも事実である。計算処理の速度や正確性に遅れが出たり、学習問題を具体的にイメージできなかったりと、数学的な概念を理解できずに苦戦している児童も少なくない。児童が日常生活とつなげながら考えられるように、意図的に具体例を使った学習指導をしていく必要もあることが考えられる。

　（３）指導観

　　　児童は日頃から、走る速さや乗り物の速さを「速い」、「遅い」などと表現しており、速さという言葉には慣れ親しんでいる。しかし、速さを表す二つの量のうち一つが実際には目に見えない「時間」であるために、速さの意味は児童にとって難しいものである。場合によっては、実際に自分の走る速さなどを測定して、友達の結果と比較するなどの活動を通して、「１秒当たりに走った距離」や「１ⅿ当たりにかかった時間」で表した速さを実感させたい。また、単位量当たりの大きさは、平均の考えを前提としており、二つの量の間には比例関係がある。異種の二つの量の関係を数直線に表すことで、この点を既習の学習と統合して捉えさせることが大切である。本単元で学習する単位量当たりの大きさの考え方を、他教科や日常生活に生かすことにつなげていきたい。

　　　児童にとっては、単位量当たりの大きさの概念や数量の関係をつかみにくい場合がある。その要因として、数量どうしの関係や、数をどう処理すればよいのかわからないなど、数概念の理解の未熟さがある。そこで、日常的に使う場面をたくさん用意しておくことが有効になる。例えば、自分の住んでいる町などの人口密度や、食料品の価格表示、乗り物の混み具合などが考えられる。それらの例を用意し、題材にしながら考えていけるように工夫していきたい。また、数量概念の理解が苦手な場合、時間や長さの単位どうしの関係を捉えたり、公式を使って計算したりすることが苦手なため、つまずくことが考えられる。学習に入る前に既習事項である以下の内容を確認し、指導に当たっていきたい。

　　　【時　間】　１時間＝６０分、　１分＝６０秒

　　　【道のり】　１㎞＝１０００ⅿ、　１ⅿ＝１００㎝、　１㎝＝１０㎜

　　　本時は、本単元の第1小単元の単位量当たりの大きさを用いて、混み具合の比較を行う。うさぎ小屋の混み具合を取り上げ、面積とうさぎの匹数という異種の二つの量について、一方の単位量に対する他方の量の大小によって比較する場面を扱う。ここでの「１匹当たりどれだけの面積があるか」「１㎡当たり何匹いるか」といった考え方には、比例や平均の考え方が働いている。混み具合を考える際には、うさぎがかたまっていることなく、ならして考えることを前提としている。単元プロローグでまず一方の量が等しい場合について考える。この場合は、他方の量の大小で比較すればよいことをおさえた上で、二つの量がどちらも違う場合にはどうすればよいかという問いにつなげ単元の課題を設定していく。うさぎ小屋の面積をＡ：６㎡、Ｂ：６㎡、Ｃ：５㎡とし、面積もうさぎの数も異なる場合を比較する際に、公倍数の考えを用いて面積を揃えやすくしている。指導においては、公倍数の考えと「１㎡当たり」「１匹当たり」の考えと対比することにより、単位量当たりの大きさを用いて比べることのよさに気づかせていきたい。

　　　単位量当たりの大きさを用いて比較するときには、二つの数量の間に比例関係があるという前提がある。これをもとに、二つの量の関係を数直線に表し、どちらか一方の量を揃えれば、混み具合を比べることができることに気づかせる。教科書では、公倍数の考えと、「１㎡当たりのうさぎの数で比べる」「１匹当たりの面積で比べる」という考えを示している。いずれの考えも、一方の量を揃えて他方の量の大小で比較する考えとして統合していきたい。

３　西部地区学力向上のための授業研究について

　（１）研究課題

|  |
| --- |
| 研究課題　　　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善  研究の視点　　＜教科等＞　　主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり  　　　　　　　　　　　　　　「学びの活動」、「まとめ」、「振り返り」の充実  　　　　　　　＜特別活動＞　課題解決に向けた話合い活動 |

（２）課題設定の理由

　　　本授業研究会は、平成２３年度から始まった事業で、平成２５年度までの３年間では、「目標の明確化」　「子供のことばによる授業のまとめ」　「本時の目標を達成するための言語活動の在り方」に焦点をあて、小学校で国語、中学校で数学の授業を公開していただき、研究協議を行った。平成２６年度からの３年間では、研究課題を「主体的な学びを促し、思考力・判断力・表現力等を育む授業の在り方」とし、小学校は算数、中学校は国語の授業公開に加え、学級活動の授業研究会も小・中学校において実施した。また、平成２９年度より、小・中学校においての教科等部会、特別活動部会での研究協議を行ってきた。

　　　学習指導要領に関する中教審答申では、子供たちが学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善に向けた取り組みを活性化していくことが重要であるとまとめられている。つまり、教師には、学習の内容と方法の両方を重視した、子供たちの学びの過程を質的に高めていくことが求められている。

　　　そこで、学習指導要領に基づき、各学校で「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進めていく上でのポイントについて整理するとともに、授業実践を通した成果と課題をもとに、授業研究会を実施し、各教科等の特質に応じた学習活動を改善する視点について協議を行う。これにより、各学校の学びの質を高めていくとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて実践的な授業改善に取り組んでいくことで学力向上を図ることをねらいとする。

　　　学級活動については、全国学力・学習状況調査の質問紙調査の「学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思う」において、肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向にあり、特別活動を通じた望ましい学級集団の形成が、教育課程全体における「主体的・対話的で深い学び」の実現に寄与するものである。また、特別活動の積極的な実践を行うことは、児童生徒のよりよい人間関係や、豊かで楽しい学級・学校生活をつくることにもつながっている。

　　　以上の理由により、令和３年度までの取り組みを基盤とし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて実践的な授業改善に取り組んでいくことが、学力向上を図ることにつながると考え、本研究課題を設定する。

４　単元の目標と評価規準

◎異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、単位量当たりの大きさを用いた比べ方や表し方について図や式を用いて考える力を養うとともに、単位量当たりの大きさの意味や表し方を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の学習に活用しようとしたりする態度を養う。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現等 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方について理解している。  ②単位量当たりの大きさについて理解している。  ③異種の二つの量の割合で捉えられる速さや人口密度などを比べたり表したりすることができる。 | ①異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じた、大きさの比べ方や表し方を考えている。  ②日常生活の問題（活用問題）を、単位量当たりの大きさを活用して解決している。 | ①異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、単位量当たりの大きさを用いて比べることのよさに気付き、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。  ②単位量当たりの大きさを活用できる場面を身の回りから見付けようとしている。 |

５　指導及び評価計画

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習内容  （○数学的活動） | 指導上の留意点 | 学習評価・評価方法  指導に生かす評価（・）記録に残す評価（☆） | | |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現等 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| （１）こみぐあい | | | | | |
| １ | ・うさぎ小屋の面積とうさぎの数の関係に着目し、混み具合の比べ方を考える。 | ・面積とうさぎの数のどちらか一方の量が揃っていれば、混み具合を比べられることを確認する。 |  | ・思①  （行動観察、ノート分析） |  |
|  | ・二つの量が異なる場合の混み具合の比べ方をまとめ、「単位量当たりの大きさ」の意味を理解する。 | ・前時の面積、匹数が異なる場合の混み具合について、どちらか一方の量を揃えれば比べられることに気づけるようにする。  ・調べる数が多い場合には単位量当たりの大きさの考え方が有効であることに気づけるようにする。 | ・知②  （ノート分析） | ☆思①  （行動観察、ノート分析） |  |
| （２）いろいろな単位量当たりの大きさ | | | | | |
| ３ | ・「人口密度」の意味とその求め方を理解する。 | ・混み具合の学習を想起させ、面積がと人口がわかればよいことをおさえ、「人口密度」の意味を捉えられるようにする。 | ・知③  （ノート分析） | ・思①  （行動観察、ノート分析） |  |
| ４ | ・単位量当たりの大きさを用いて、問題を解決する。 | ・面積ととれた米の重さが必要であることをおさえ、単位量当たりの大きさを使って考えるのに二つの量に着目すればよいことをまとめられるようにする。 | ・知①  （ノート分析） |  |  |
| （３）速さ | | | | | |
| ５ | ・単位量当たりの大きさに着目し、速さの表し方を考える。  ・混み具合と速さの比べ方を、単位量当たりの大きさとして統合的に捉える | ・「単位量当たりの大きさ」と同様に一方の量を揃えるともう一方の量で比較できることに気づけるようにする。 |  | ・思②  （行動観察、ノート分析） | ☆態①  （行動観察、ノート分析） |
| ６ | ・速さを求める公式を理解し、それを適用して速さを求める | ・「時速」「分速」「秒速」の意味を捉えさせ、どの単位時間を用いるかによって、いろいろな表し方があることをおさえられるようにする。 | ・知③  （ノート分析） | ・思①  （行動観察、ノート分析） |  |
| ７ | ・道のりを求める公式を理解し、それを適用して道のりを求める | ・数直線から、道のりが時間に比例していることに気づかせ、１単位時間当たりの道のりの求め方を考えられるようにする。 | ・知③  （ノート分析） | ・思①  （行動観察、ノート分析） |  |
| ８ | ・速さと道のりから時間を求める方法を考える  ・速さ、道のり、時間の求め方を統合的に捉える | ・前時に学習した「道のり＝速さ×時間」の公式を想起させ、時間を求める方法を言葉や数直線で説明できるようにする。 | ・知③  （ノート分析） | ・思①  （行動観察、ノート分析） |  |
| （４）まとめ | | | | | |
| ９ | ・学習内容の生活への活用（いかしてみよう） | ・学習したことを、具体的な生活場面と結びつけさせ、単位量当たりの大きさのより深い理解につなげられるようにする。 |  | ☆思②  （行動観察、ノート分析） | ・態①  （行動観察、ノート分析） |
| 10 | ・学習内容の習熟、定着を図る  ・数学的な見方、考え方を振り返り価値づける | ・学習内容の定着を確認するとともに、基本的な問題を解決できるようにする。 | ・知①  （ノート分析） | ・思②  （行動観察、ノート分析） | ☆態②  （行動観察、ノート分析） |
| 11 | ・学習内容の定着の確認 | | ☆知①②③  （ペーパーテスト） | | |

６　本時について（２／１１時）

　（１）本時の目標

　　○単位量当たりの大きさを用いて比べることの意味を理解し、混み具合を比べることができる。（知識及び技能）

○混み具合の比べ方を、面積と匹数の関係に着目して図や式を用いて考え説明している。（思考力・判断力・表現力等）

　（２）展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 教師の発問（◎）  予想される児童の反応（・） | 評価規準（◇）  支援（⇒）  指導上の留意点（○） | 時間 |
| １　問題を把握し、課題を見いだす。  ２　本時の課題をつかむ。  ３　問題解決への見通しをもつ。  ４　自力解決をする。  ５　それぞれの考え方を話し合い、発表する。  ６　それぞれの考えについて検討する。  ７　本時のまとめをする。  ８　適用問題に取り組む。  ９　本時のふり返りをする。 | ◎前回のＡ、Ｂ、Ｃのうさぎ小屋で、比べやすいのはどれとどれでしたか。  ・ＡとＢの小屋は、面積が揃っているから比べられた。  ・ＢとＣの小屋は、うさぎの数が揃っているから比べられた。  ◎ＡとＣの小屋では、どちらが混んでいますか。  ・面積とうさぎの数が揃っていないから比べづらい。  ◎面積もうさぎの数が揃っていなくても比べることはできるでしょうか。  ・面積とうさぎの数のどちらかを揃えればできそう。  どちらの数も揃っていないときの混み具合の比べ方を考えよう。  ◎どうやって混み具合を比べればよいでしょうか。  ・ＡとＣの面積を１㎡に揃えれば、うさぎの数で比べられそう。  ・ＡとＣのうさぎの数を１匹に揃えれば、小屋の面積で比べられそう。  ・ＡとＣの面積を公倍数の30㎡に揃えれば、うさぎの数で比べられそう。  ・ＡとＣのうさぎの数を公倍数の72匹に揃えれば、小屋の面積で比べられそう。  ・数直線を使って、小屋の面積とうさぎの数を整理しながら比べるとわかりやすい。  ◎ＡとＣのうさぎ小屋の混みぐあいを、うさぎ小屋の面積か、うさぎの数のどちらかに揃えて比べてみましょう。  ・１㎡当たりのうさぎの数で比べた。    　Ａ：□×6＝9  　　　　 □＝9÷6  ＝1.5（ひき）  　Ｃ：□×5＝8  　　　　 □＝8÷5  ＝1.6（ひき）  Ａ．Ｃのほうが混んでいる。  ・１匹当たりの面積で比べた。    Ａ：□×9＝6  　　　　 □＝6÷9  ＝0.666…（㎡）  　Ｃ：□×8＝5  　　　　 □＝5÷8  ＝0.625（㎡）  Ａ．Ｃのほうが混んでいる。  ・30㎡に何匹いるかで比べた。  　Ａ：9×5＝□  　　　　□＝9×5  ＝45（ひき）  　Ｃ：8×6＝□  　　　　□＝8×6  ＝48（ひき）  Ａ．Ｃのほうが混んでいる。  ・72匹のときの面積で比べた。  Ａ：6×8＝□  　　　　□＝6×8  ＝48（㎡）  　Ｃ：5×9＝□  　　　　□＝5×9  ＝45（㎡）  Ａ．Ｃのほうが混んでいる。  ⇒Ａ．Ｃ・Ａ・Ｂの順番で混んでいる  ◎混み具合の比べ方をグループで話し合い、どんな共通点があるかを考え、発表しましょう。  ・どの考えも、面積かうさぎの数のどちらかを揃えて比べている。  ・１㎡や１匹当たりは、わり算を使っている。  ・公倍数をみつけて比べるやり方はかけ算を使っていて簡単そう。  ◎それぞれのやり方のよいところは、どんなところでしょうか。  ・公倍数で揃えている比べ方のほうがかけ算だから早くできそう。  ・公倍数で揃える比べ方は、数が大きくなるから、計算は簡単だけど比べづらそう。  ・どちらかを１に揃える比べ方は、調べる数が増えても、たくさんの混み具合を比べることができそう。  ・面積を１㎡にすると、数が大きいほうが混んでいると考えられるからわかりやすい。  ◎話し合ったことを基に、今日わかったことをまとめましょう。  １㎡当たりの平均のうさぎの数や、１ぴき当たりの平均の面積を調べれば、混み具合を比べることができる。  　⇒２つの量を組み合わして表した大きさを「単位量当たりの大きさ」という。    ◎どんな順番になりましたか。  ・１㎡当たりのうさぎの数で比べた。  　Ｄ：□×9＝14  　　　　　 　＝14÷9  ＝1.55…（ひき）  ・１匹あたりの面積で比べた。  　　Ｄ：□×14＝9  　　　　　　□＝9÷14  　　　　　　　＝0.642…  Ａ．Ｃ・Ｄ・Ａの順番で混んでいる。  ◎今日の学習から、気づいたことやわかったことをふり返り、発表しましょう。 | ○うさぎの小屋の面積とうさぎの数の表をスクリーンに投影し、黒板にも掲示する。  Ａ、Ｃのうさぎ小屋の、混み具合の順番を調べましょう。  ○小屋の面積とうさぎの数のどちらかが揃っていれば比べることができ、小屋の面積が同じならうさぎの数うさぎの数が多いほうが混んでいるなど、一方の量を揃えるともう一方の量で比較できることに気づかせる。  ○うさぎ小屋の中のうさぎの偏りについては、小屋全体の混み具合を比べるという目的を基に、平均の考えを使って理想化して考えていくとよいことを、教科書の図を提示しながら確認する。  ○二つの量の関係を図（数直線）に表したり、どのような考え方を使って比べたのかを言葉で表したりさせる。  ⇒二つの量の関係が捉えられない場合や立式にとまどう児童には、数直線（ヒントカード）を提示し、二つの量の関係を捉えた上で立式につなげられるようにする。  ⇒１㎡当たりや１匹当たりの比べ方について、数直線の活用ではわかりにくい場合、図を提示し、混み具合を比較できるようにする。  ○机間指導を行い、自らの考えを記入している児童のノートの写真を撮影する。  ○小グループになり、それぞれの考えを話し合わせる。  ○ＩＣＴの操作をし、撮影した児童のノートをスクリーンに投影する。  ○用紙に拡大した数直線に、発表児童の考えを書き込み、黒板に掲示する。  ○数直線で考えた児童の考えを意図的に取り上げ、平均の考えや二つの数量の間に比例関係があるこということを基に、「どちらかを揃えて比べること」の根拠を説明させる。  ◇混み具合の比べ方を、面積と匹数の関係に着目して図や式を用いて考え、説明している。【思・判・表】（観察・ノート）  ○小グループで、「いつでも」「簡単に」といった視点から、よりよい比べ方を考えさせる。  ○効率性、一般性という観点化から、単位量当たりの考えのよさをおさえる。  ○学習の過程をふり返らせ、児童から出てきた言葉を使ってまとめを書く。  ◇単位量当たりの大きさを用いて比べることの意味を理解し、混み具合を比べることができる。【知・技】（観察・ノート）  ○ふり返りを書き終えた児童から発表させ、児童のがんばりを称賛する。 | ３分  ２分  ２分  ８分  １５分  ５分  ２分  ５分  ３分 |

　（３）板書計画

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 11/10  Ｐ29 | |  | | --- | | Ａ、Ｃのうさぎ小屋の、混みぐあいの順番を調べましょう。 |   ・ＡとＣが比べられない。   |  | | --- | | どちらの数もそろっていないときの混みぐあいの比べ方を考えよう。 |   ・面積とうさぎの数のどちらかをそろえる。  ・数直線を使って考える。  ⇒数の関係を整理しながら |  | ○１㎡あたりのうさぎの数  A:□×6＝9　　C:□×5＝8  　　 □＝9÷6　　 □＝8÷5  　　　 ＝1.5　　　　 ＝1.6  ○１ぴきあたりの面積  A:□×9＝6　　C:□×8＝5  　　 □＝6÷9　　 □＝5÷8  　　　 ＝0.666…　 ＝0.625  Ａ．Ｃ・Ａ・Ｂの順番 |  | |  | | --- | | １㎡あたりの平均のうさぎの数や、１匹あたりの平均の面積を調べれば、混みぐあいを比べることができる。  ⇒２つの量を組み合わして表した大きさを「単位量あたりの大きさ」という。 |   ☆１㎡や１ぴきにそろえる  ⇒調べる数が増えても比べやすい。  ☆１㎡にする  ⇒数が大きいほうが混んでいる  Ｄ：□×9＝14  　　　　 □＝14÷9  ＝1.55…  Ａ．Ｃ・Ｄ・Ａの順番 |